

平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 006	提案機関名 湘南地域県政総合センター
<b>要望問題名</b> 強制換羽方法の検討	
<b>要望問題の内容</b> 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 (管内養鶏農家からの要望) 本県では全国で見ると小規模養鶏が多く、鶏卵の直売も多いため、時期や販売状況に合わせた鶏卵生産が重要である。一方、飼養ロットは限られるので、鶏卵生産を微調整できる方法として、強制換羽の実施方法を検討していただきたい。効果的な強制換羽により、効率的に鶏卵生産できるとともに、飼養期間が延長され、雛導入費も減少できる。過去にも強制換羽についての試験研究があるが、体重・飼料要求率などが異なっていることから、現在の飼養状況に適した方法の検討が必要である。	
<b>解決希望年限</b>	1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 2～3年以内    4～5年以内    5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> 畜産技術所    水産技術センター 自然環境保全センター
<b>備考</b>	

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター 畜産技術所	<b>担当部所</b>	企画研究課
<b>対応区分</b>	実施    実施中    継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済    調査指導対応    現地対応    実施不可		
<b>試験研究課題名</b> ( 、 、 の場合) 養鶏経営におけるシミュレーション研究(平成19年度) (採卵鶏の換羽処理方法の違いによる収益性に関する比較)			
<b>対応の内容等</b> 強制換羽(誘導換羽)の方法として、鶏を絶食させる方法(絶食法)が、養鶏現場では広く用いられています。しかしながら、この絶食法は効果的ではありますが、絶食のストレスによりサルモネラ等の疾病感染のリスクが高まり、アニマルウェルフェアの観点からも問題となるため、「アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針」((社)畜産技術協会:H23.3月)では絶食によらない方法を推奨しています。このようなことから、近年、絶食法に代って、低栄養の換羽用飼料による誘導換羽方法が国内で研究が行われ、現在、数社から誘導換羽用飼料も市販されています。なお、市販誘導換羽用飼料による誘導換羽は、褐色鶏では銘柄によっては換羽後の産卵性に問題があったとの報告(村野多可子2009千葉畜産研報9:19-23)があるので注意が必要と思われる。低栄養のフスマやもみ殻を用いた誘導換羽方法については、マニュアル(鶏の産卵調製マニュアル:愛知県農業試験場他:H23.2月)が作成されていますので、参考にして下さい。なお、当所でも、平成19年度にフスマ等による誘導換羽の収益性に関する試験を実施しましたので、併せてご参照下さい。 <a href="http://www.pref.aichi.jp/nososi/seika/gijutujohou/siryousanrantyousei.pdf">http://www.pref.aichi.jp/nososi/seika/gijutujohou/siryousanrantyousei.pdf</a>			
<b>解決予定年限</b>	1年以内    2～3年以内    4～5年以内    5～10年以内		
<b>備考</b>			